

九州大学経営協議会議事録

日時：平成29年6月29日（木）13：00～15：05

場所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：29名中20名出席

【構成員等の紹介】

経営協議会委員及び本学の役員等について紹介があった。

【審議事項等】

1 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

平成28年度計画に関する自己点検・評価の結果に基づき作成した「平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書」について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・定員充足率について、満たしている専攻等と満たしていない専攻等の差が大きいが、どういった要因があるか。
→定員を大幅に上回る専攻等については修士論文や博士論文の研究を継続するために標準修業年限を超えて在籍する者が多数いる状況である。また、組織改編前の数値であるため200%を超えている専攻があるが、新たに共同専攻を設置したことにより解消される見込みである。
- 一方、定員を充足していない専攻等については改善すべきと考えており、定員充足に向けて、社会の要請に応える魅力的な教育プログラムにするなど、積極的なアピールを考えている。
- ・学位論文のために修業年限を超えて在籍している者への支援体制はあるのか。
→メンターを配置し、丁寧に教育・研究の指導をするようにしている。
- ・需要そのものが少なくなっている学問分野もあるのではないか。
→現在の需要が少なくなっている分野であっても、中・長期的な視点をもってイノベーションを生み出すことにより社会に新たな価値を創造することができる。また、組織改編によって対応していくことも必要と考えている。
- ・留学生のアクセシビリティはスーパーグローバル対応にとっても重要な指標となる。対応いかがか。
→カウンセリングは英語・中国語に対応可能なスタッフを配置する等対応している。常時2,000人、ピーク時には3,000人の留学生がいる。スーパーグローバルの目標値として今後も留学生数を増やしていく計画である。増えていく留学生に対し、学生チューター、ボランティアなど多様な人材を活用し、留学生へのサポートを充実させていく。

2 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・改善すべき点として指摘を受けている項目についての対応状況いかがか。
→研究費不正に関しては、不正防止に係る研修を受講した者しか研究費の申請が出来ないようにするなど、ルールを知らなかったことによって起こるようなエラーは避けるようにしている。また検収センターなどで購入物品をチェックできるシステムを構築する等、

研究費の不正防止に向けた取組を実施している。

3 平成 28 事業年度の決算について

文部科学省へ提出する平成 28 事業年度財務諸表（案）、決算報告書（案）及び事業報告書（案）について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・病院の収益が増加しているが、要因は何と分析しているか。

→外来を予約制にし、より高度な医療を必要とする患者が増えたことで、外来診療単価が増加した。

4 平成 30 年度概算要求事項について

文部科学省へ提出する平成 30 年度概算要求事項について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・共創学部への設置に向けた進捗はどうか。

→文部科学省に提出した「共創学部設置計画書」について、大学設置・学校法人審議会から審査意見が付された。それに対応した「補正計画書」を 6 月末に文部科学省へ提出する予定である。8 月末に設置認可がなされれば、入学者募集要項を公表し、広く PR していく予定としている。また、高校生にとって身近な存在である先輩（九大生）を母校に派遣し、共創学部の PR を行っている。

- ・平成 30 年は共創学部の設置とともに、新図書館のオープニングも控えており、九州大学全体をアピールできる機会として相乗効果が期待できるのではないか。

→貴重なご意見として承る。共創学部と図書館と一体となってアピールできるような仕掛け作りをしたい。新図書館ではアクティブラーニングスペースの活用として、図書館 T A によるピアサポートや基幹教育（初年次）学生向けのレポート講座を開催しており、さらに共創学部とともにスペースを活性化させる取組をしていきたい。

5 平成 28 年度資金運用実績について

財務委員会において報告された平成 28 年度資金運用実績について、報告があった。

6 第 4 回世界社会科学フォーラム（WSSF2018）の開催について

本学主催の World Social Science Forum 2018 の開催について報告があった。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・サイバーセキュリティや持続可能な開発など魅力的なテーマであるが、世界中から参加者を見込んでいるのか。

→前回の WSSF は南アフリカで開催され、84 カ国から 1,000 名以上が参加している。今回はそれを上回る参加を見込んでいる。

【その他、報告事項等】

○ 在籍学生数（平成 29 年 5 月 1 日現在）について

平成 29 年 5 月 1 日現在の在籍学生数について説明があった。

- 学士課程における GPA の推移について
学士課程における GPA の推移について説明があり、以下のような質疑応答があった。
 - ・学部ごとに GPA の分布にばらつきがあるように見受けられるが、GPA の評点に関する申合せのようなものはあるか。
→全学的な申合せはない。各学部の考えに基づいて実施されているところ。学部ごとの点数分布や平均など、これから具体的に検証を進めていきたい。

【懇談会】

- デザインによるイノベーションへの展開と題して芸術工学研究院の取組みの説明があり、以下のような意見があった。
 - 産業界にも強い影響のある取組みである。中央省庁からも九州大学がデザイン学コンソーシアムのハブとなることが期待されている。
- 大学トップマネジメント研修 2016 の参加報告があり、以下のような質疑応答があった。
 - ・優秀な人材獲得のためには戦略的な人事システムが重要だが、九州大学における年俸制の導入状況いかがか。
→九州大学においては 2 年前から年俸制を導入しており、200 名超の教員に年俸制が適用されている。インセンティブの要素について、大型研究プロジェクトを獲得したことなどが評価されているが、教育活動をどのようにリンクしていくかは議論しているところである。
 - ・ステークホルダーの共感を獲得していくためには、ステークホルダーとの関係をどう構築していくかが重要。社会人学生や正規の学位プログラム以外の学生、またリタイア後の学びなおしの学生など、多様な層をステークホルダーとした社会との接点の作り方が重要。
→貴重なご意見として承る。

【その他】

次回の経営協議会は平成 29 年 10 月 26 日(木)に開催予定である旨の案内があった。

(以 上)